

マリレジャーに関する安全情報など様々な情報をお届けします！

海の事故情報 11月中のマリレジャーに伴う海難・人身事故の発生状況 プレジャーボートの海難

- ①【機関故障（曳航中に転覆）】11月23日、青森県六ヶ所村沖で釣りをしていたプレジャーボート（約5m、3名乗船）が機関故障のために航行できなくなり、次第に風が強まってきたため、乗船者が最寄りの漁協に電話で救助を求めました。プレジャーボートは、現場に到着した漁協監視船に曳航され、漁港に向かっていたところ、大波により浸水・転覆し、乗船者は3名とも海に投げ出されましたが、監視船により全員無事救助されました。（全員ライフジャケット着用）



転覆したプレジャーボート

POINT 機関故障や燃料切れ、バッテリー上がりなどによる海難が多く発生しています。日頃から定期点検・整備を励行して、消耗品類はメーカーが推奨する期間内に交換しましょう。発航前の点検も怠らず、燃料量、エンジンオイル量、バッテリー電圧などは、必ず点検しましょう。チェックリストはこちらから↓

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/O2kanku/yorozuya/shiryousouko/hakkomaetenken.pdf>

また、出港前に必ず気象情報を確認し、荒天が予想される場合は出港を取りやめる判断も必要です。

海浜での人身事故

- ①【海浜事故】11月4日、秋田県能代港の防波堤（離岸堤）で、暗夜の上に濃霧の中、釣人が誤って海に転落しました。気が付いた仲間がロープで転落者を確保し、118番通報で救助を求め、通報を受けて現場に駆けつけた消防手配の小型船により救助されました。（ライフジャケット着用）
- ②【海浜事故】11月10日、福島県南相馬市の河口防波堤で、釣り人が消波ブロックの間に転落して死亡しているのが発見されました。（ライフジャケット未着用）

POINT 夜間の釣りは、周囲の状況が把握し難く、転落のリスクが高まるとともに、転落した場合の発見・救助が困難になります。十分な照明を準備し、転落しないように慎重に行動しましょう。また、立入が禁止されている場所での釣りは絶対に止めましょう。

消波ブロックから転落して死亡する事故が続いています。消波ブロックは安定した足場が無い上に滑りやすく、転落した場合は隙間に入り込んで這い上がれないなど非常に危険なので、消波ブロック上での釣りは絶対に止めましょう。



護岸に設置された消波ブロック

海の安全情報 荒天に備えた保船について



急速に発達する低気圧や台風などにより、港内に係留中の小型船に波が打ち込んで浸水・転覆する事故が発生しています。荒天が予想される場合は、事前に風や波の影響の少ない場所に移動するか、陸揚げするなどして備えましょう。

冬は、船の上に雪が降り積もって重心が高くなり、転覆する事故も発生しています。冬場に船を動かす機会が少ない場合は、できるだけ陸揚げして保管しましょう。

ワンポイント講座 事故防止のためのワンポイント講座。『水深と物標の高さ』

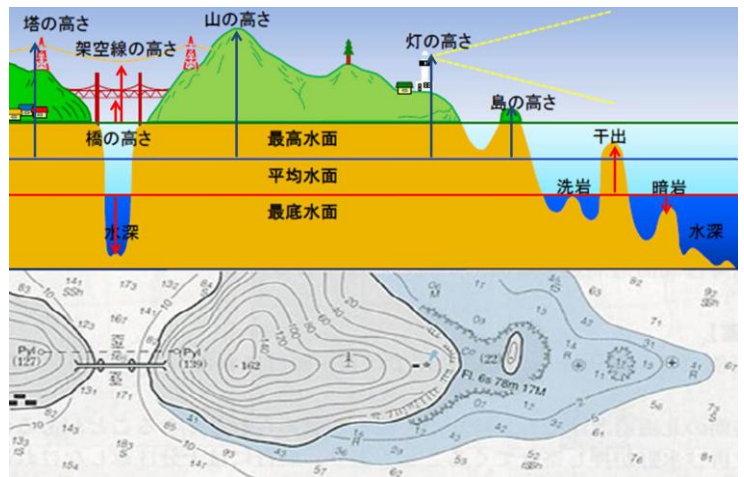
海図には、水深や底質（泥、砂、岩など）、航路標識のほか目印となる主な物標やその高さなど、様々な情報が記載されています。

水深は、その場所の海面から海底までの深さで、最低水面（略最低低潮面とも言い、これよりも潮位が下がることはほとんどないとされる海面）からの深さを表示しています。

山や煙突・鉄塔などの顕著な物標の高さや灯台の灯高は、平均水面（潮の満ち引きがないものと仮定した平均的な海面）からの高さを表示しています。（平均水面は、長期間にわたる潮位観測資料を平均して得られる面で、現地毎に定められています。）

ただし、海にかかる電線や橋の高さは、最高水面（略最高高潮面とも言い、これよりも潮位が上がることはほとんどないとされる海面）からの高さを表示しています。

水深や海にかかる電線、橋の高さは、航行する船の安全を考慮して、表示する際の基準が決められているのです。

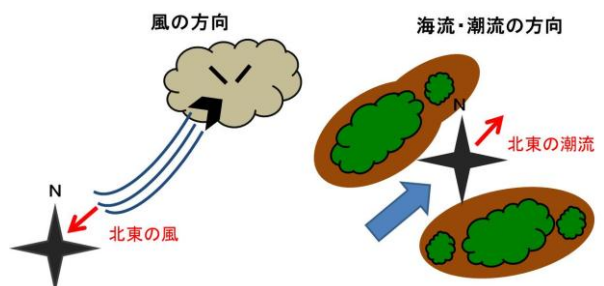


海の言葉 海や船に関する用語について解説します。『海流と潮流』

大気中に流れ（風）があるように、海中にも水の流れがあります。

海水の流れの中で、常にほぼ一定方向に流れる大きな流れを「海流」と言います。日本周辺の黒潮や親潮などは海流にあたります。

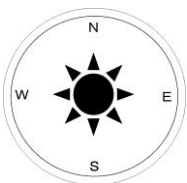
また、海の干満による海水の周期的な流れを「潮流（潮汐流）」と言います。瀬戸内海では、干満差が大きいうえに狭い海峡などが多いために潮流が速く、鳴門海峡や来島海峡では、潮流が最大約 10 ノット（約



19km/h) にもなります。

海上で漂泊している船が、風も吹いていないのに移動してしまうのは、海流や潮流の影響によるものです。海流や潮流の方向を表す場合、風向が「風が吹いてくる向き」で表すのとは逆で、「流れが去る向き」で表します。

羅針盤 編集担当者の四方山話的コラムです。『師走』



「師走」の語源を調べたところ、もともとは旧暦の12月を言い、この月になると家々で師（僧）を呼んで経をあげたため（和尚さんが忙しく家々を走り回るから）との説があるようです。12月に仏事が多くなるというのはよくわかりませんが、年の瀬を迎えると師でなくとも何かと気ぜわしくなりますし、「師走」は12月のイメージとして頷けるような気がします。

12月を迎える度に、「もう1年が終わる。早い…。」と感じます。1年が早く感じられるようになったのは、いつの頃からだったのでしょうか。少なくとも小学生や中学生の頃には、正月が待ち遠しいことはあっても、「もう正月か」と思ったことはありませんし、若い頃は、忙しくていつの間にか1日が終わった、ということはあるけれども、1年が早いと感じたことはなかったように思います。年齢を重ねるたびに時間のスピード？が加速されるような気がするの、記憶できる容量が少なくなって、1年の出来事をよく覚えていないからでしょうか…。

マリレ情報よろず屋は、皆様の記憶に残る内容を目指していきたいと思いますので、来年もよろしくお願いたします。



大切な命! 自分で守る

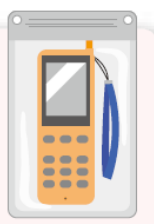
海上保安庁では、大切な命を自分で守るため、そして、一人でも多くの人を救助できるよう、次の3つを基本とする「自己救命策確保」を推進しています。



ライフジャケット
の常時着用



携帯電話などの
連絡手段の
確保



救助要請
は118番

海のもしもは!
118

本紙を印刷物でご覧の方へ

マリレ情報よろず屋をホームページからご覧になる場合は、次のURLから！「マリレよろず屋」で検索してもヒットします！

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/O2kanku/yorozuya/index.htm>

マリレよろず屋

で

検索

